九月宝生会　月並能

九月十三日（日）
午後二時始

演目の解説

能「鳥追」（とりおい）

九州日暮の里の日暮殿は、訴訟の為十年近くの在京し、残された妻子を家人は左近の尉が養っています。左近の主人は自分の田の鳥を追わせるため、わなけの日暮殿の妻子にもしも鳥を追承れば家を追い出すと脅し無諾させます。この地方の習理やしたがって鳴子や鞨鼓を飾った鳥追船にいとして乗り、二人に鳥を追わせている所に日暮殿が都から帰り、子の訴えに怒りの余り左近の尉を斬ろうとしますが、妻の訴えに思いとどまり命を助けます。

狂言「佐渡狐」（さどぎつね）

佐渡の国の百姓と越後の国の百姓が、領主に年貢を納めに行く途中で道連れになり、佐渡に狐がいるかいないかの論争になります。二人はそれぞれの一腰を賭け、役人の奏者に判定を頼むことにします。先に年貢を納めに入った佐渡の百姓は、実は狐を見たことがないので、奏者に賄賂を渡しそのかつたので、奏者に賄賂を渡しそのの形や色を教えてもらいます。いざ判定のため、二人揃って奏者の前に出ると…。

能「融」（とおる）

旅の僧が都に上り六条河原の院の旧跡を訪ねると、塩汲みの老人に会いました。塩汲みとは不審に思った僧が尋ねると、老人は河原の院に昔、源融の邸が在ったこと、難波の浦から毎日潮を汲んで都に運ばせ、ここで塩を焼いて陸奥の塩釜の風情を楽しみます。融大臣の求めに応じて名所の数々を教えます。僧の夢中に、在りし日の廃墟に佇む桶を残して消え去り、融大臣となって現れ、月下に舞を舞います。

14:00

鳥追

子方 水上　嘉
シテ 小林与志郎

ワキ 森　常好
ワキツレ 舘田　善博
間 山本　則孝

大鼓 柿原　光博
小鼓 森澤　勇司
笛 藤田　貴寛

後見 亀井　保雄
辰巳満次郎
小林　晋也

地謡 山内　崇生
朝倉　俊樹
武田　孝史
佐野　登
水上　優

15:10

佐渡狐

山本　則俊

山本　則秀
山本　則孝

15:55

融

シテ 東川　光夫

ワキ 福王　和幸
間 山本　則重

大鼓 國川　純
小鼓 大倉源次郎
太鼓 吉谷　潔
笛 小野寺竜一

後見 宝生　和英
前田　尚廣

地謡 野月　聡
今井　泰行
佐野由於
金井雄資
小倉健太郎

〈休憩十五分〉

終演予定　十七時二十五分頃